

須磨区地域提案型活動助成

2021年度・2022年度活動に向けての企画検討書

自治会を支援する会・西須磨

| 目次 | |
|--------|--|
| 1. | ホームページとガイドンスをブラッシュアップする |
| 1.1. | ホームページをブラッシュアップする |
| 1.1.1. | 投稿を継続する |
| 1.1.2. | ホームページを広く閲覧してもらう。閲覧状況を把握する |
| ① | 検索エンジンに検索してもらえるようにする |
| ② | SEO (Search Engine Optimization) 対策をする |
| ③ | アクセスツールを設置する (閲覧数を把握する) |
| 1.1.3. | 投稿を一本化する (1.1.2終了後) |
| 1.1.4. | 内容を充実する |
| 1.1.5. | 他自治会のホームページを開設する |
| 1.2. | ガイドンスをブラッシュアップする |
| 1.2.1. | ガイドンスを使いやすくする |
| 1.2.2. | ガイドンスの内容を充実させる |
| 2. | ICTモデルの導入を検討する |
| 2.1. | 「タダカヨ」モデルから学ぶ |
| 2.2. | 「結ネット」モデルから学ぶ |
| 2.3. | その他のモデルも検討する |
| 2.4. | 情報伝達をプル型からプッシュ型に拡大する |
| 3. | トータルシステムを整備する |
| 3.1. | H S Iを導入する |
| 3.1.1. | H S Iとは |
| 3.1.2. | H S Iの一形態 |
| 3.2. | 支援メニューを多様化する |
| ① | 自治会ICT-SP (ICTサポート)を実施する |
| ② | 地域資源KD (協業の場)を形成する |
| ③ | 支援窓口紹介を機能させる |
| ④ | 総合窓口を設置する |
| 4. | 実施活動を展開する |
| 4.1. | 自治会を支援する |
| 4.1.1. | ●●町●丁目自治会を支援する |
| 4.1.2. | 西須磨のその他の自治会に接触し、支援する |
| 4.2. | 認知症になっても住めるまちの基盤をつくる |
| 4.2.1. | 自治会としての取り組み方を検討する |
| 4.2.2. | 認知症高齢者声掛け訓練を実施する |
| 4.3. | ホームページ、ガイドンスの活用を西須磨で広げる |
| 4.4. | 独立組織としての基盤を整備する |
| ① | 「顧客」を増やす |
| ② | 活動を支援してくれる人を確保する |
| ③ | 助成終了後も活動を継続していくための経済的な裏付けをつくる |

© 2021 藤波 進

2021/04/11 版

なお、自治会を支援する会・西須磨の会員は、主としてユーザーの立場から意見する。システムを作るのは、外部に協力を求める。

1. ホームページとガイドンスをブラッシュアップする

1.1. ホームページをブラッシュアップする

1.1.1. 投稿を継続する

目安は2件/1日とする。関守町2丁目HP・自治会を支援する会HPの両方に投稿する

1.1.2. ホームページを広く閲覧してもらう。閲覧状況を把握する

- ① 閲覧検索エンジンに検索してもらえるようにする
(早く検索エンジンに来てもらい、サイトの内容を正確に把握してもらう)
- ② SEO(Search Engine Optimization)対策をする
(検索結果でサイトを上位に表示させる)
- ③ アクセス解析ツールを設置する
(閲覧数を把握する)

1.1.3. 投稿を一本化する(1.1.2.終了後)

目安2件/1日は、継続する。自治会を支援する会HP投稿に一本化する

(関守町2丁目HP読者を確実に、自治会を支援する会HPに取り込む対策をしてから)

1.1.4. 内容を充実する

メインメニューを追加する

1.1.5. 他自治会のページを開設する

関守2丁目自治会と同様の、他自治会のホームページを固定ページとして作成する

1.2. ガイドンスをブラッシュアップする

1.2.1. ガイドンスを使いやすくする

- ① ガイドンスHB(ハンドブック:使う側から作成)を作成する
- ② ガイドンスHBS(概要版:A3・1枚)を作成する
- ③ ガイドンスHBL(リンク版:リンクの連続で知りたいことに到達)を作成する

1.2.2. ガイドンスの内容を充実させる

- ① 自主点検をして改良する
項目を追加する。
「事象」「対応」「課題」「顛末」を見直す ～ 形作りを先行させて作成していた
- ② 使ってもらいながら改良する
(1.1.5)が先行する
改良ポイントは、①と同じ

(次ページに続く)

2. ICTモデルの導入を検討する

2.1. 「タダカヨ」モデルから学ぶ

「タダカヨ」は、コロナの感染予防のため施設での面会中止が広がった昨年3月ごろ、介護従事者や施設入居者の家族らを対象に、オンライン面会に関する簡易マニュアルの無料公開を始めた。その後、オンライン会議サービス「Zoom(ズーム)」やビジネス用チャットアプリ「LINE WORKS(ラインワークス)」などのマニュアルも公開した。実際の操作画面の画像に分かりやすい説明文を付けたPDFファイルが好評で、総ダウンロード数は1万件を超えた。

産経新聞(2021/03/16 夕)

<https://www.sankei.com/premium/news/210311/prm2103110001-n1.html>

「タダカヨ」のホームページ

<https://mmky310.info/>

2.2. 「結ネット」モデルから学ぶ

地域ICTプラットフォームサービス「結ネット(ゆいねっと)」は、地域組織や各種団体において、平常時は地域等の電子回覧板や自治体・事務局・店舗からの情報発信ツールとして利用し、災害時には安否確認システムとして活用できるスマートフォンアプリです。

「クラウド型町内会運営システム」、「地域事業者リアルタイム情報発信システム」、「災害時の安否確認システム」の3システムを統合したクラウド型ポータルサービスです。

<https://www.cpu-net.co.jp/product/yui-net/>

2.3. その他のモデルも検討する

その他にモデルがないか、継続的に探索する。

2.4. 情報伝達をプル型からプッシュ型へ拡大する

ホームページはPull型(利用者が見に来ないと利用されない)である。Push型(システムが利用者に情報を押し込む)も必要。メーリングリスト、メルマガなど

3. トータルシステムを整備する

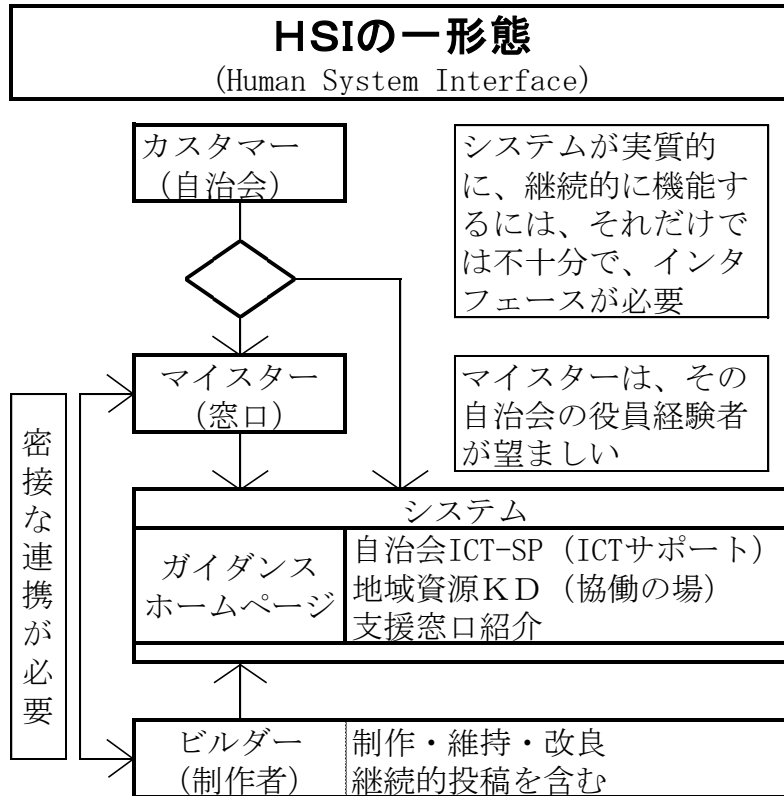
3.1. HSIを導入する

3.1.1. HSIとは

HSI(Human System Interface)とは全く新しい概念で、ヒューマン・システム・インターフェースの略語です。人間とシステム(ICT)との間にあって、人間からの指示をシステムに送り、システムからの結果を人間に送る部分を指します。いってみれば、人間とシステムとの対話の仲立ちをする人のことです。

(次ページに続く)

3.1.2. H S I の一形態



3.2. 支援メニューを多様化する

① 自治会 ICT-SP (ICT サポート) を実施する

会員名簿の作成、ホームページ運用など I C T を要する作業を請け負う。

I C T (Information and Communication Technology) = 「情報通信技術」

② 地域資源KD (協働の場) を形成する

地域資源 (地縁組織、地域のお店、地域施設、観光資源) を活用する機会を増やす

③ 支援窓口紹介を機能させる

自治会を支援してくれる組織を紹介する。そのために資源台帳を整備する

④ 総合窓口を設置する

自治会を支援する会・西須磨の提供するサービスをワン・ストップ化する。

(ひとつの場所でさまざまなサービスが受けられる環境、場所を整備する)

4. 実施活動を展開する ～ 外へ働きかける

4.1. 自治会を支援する

4.1.1. ●●町●丁目自治会を支援する

2020 年度の支援を継続する。目標は、2022 年度からの新体制づくり

4.1.2. 西須磨のその他の自治会に接触し、支援する

須磨区まちづくり課と相談しながら進める

るあわせて、ホームページ、ガイダンスを普及させる

4.2. 認知症になっても住めるまちの基盤をつくる

4.2.1. 自治会としての取り組み方を検討する

「日本認知症官民協議会」の『認知症バリアフリー社会実現のための手引き』「住宅編」の「Ⅳ. 認知症の症状の具体例と接し方」「2. 具体例」を参考にして、自治会としての取り組み方を検討する

<https://ninchisho-kanmin.or.jp/>

4.2.2. 認知症高齢者声掛け訓練を実施する

西須磨西部を中心に実施できないか（H30/11/17 西須磨東部で実施済み）

4.3. ホームページ、ガイダンスの活用を西須磨で広げる

(1.1.5)で既出。4.1、4.2と並行して推進する

4.4. 独立組織としての基盤を整備する

① 「顧客」を増やす（4.1, 4.2と関連）

② 「活動を支援してくれる人を確保する

特に、ボランティア精神のある、自治会役員経験者（会計担当者を含む）、ICT技術者、イベント・サポーターなど

③ 助成終了後も活動を持続していくための経済的な裏付けをつくる

以上